

ファンタスティック・ピアノ・コレクション 2011【中級～上級編】

1. 夢やぶれて～『レ・ミゼラブル』より／スーザン・ボイル

SMFあり ★★★★★☆

イギリスのアマチュアオーディション番組に出場したスーザン・ボイルが一夜にしてスターとなり、「奇跡の歌声」と呼ばれるに至ったきっかけとなった曲ですが、もとはミュージカル『レ・ミゼラブル』の中で、コゼットの母・ファンティーヌが歌う嘆きの歌です。過去を振り返りながらじわじわと感情が押し寄せるように、気持ちを込めて曲を始めましょう。楽譜上、メロディーと、オブリガートの特徴的なフレーズが交錯して現れるので、その区別をはっきり把握した上でそれぞれをしっかりと歌うようにしましょう。特に[F]からの4小節間は2つのメロディーの対話になります（ここでは低い方が歌の旋律です）ので、両パートを十分に説得力を持って演奏することがポイントです。

2. Mystic Antique／辻陽

SMFあり ★★★★★☆

ミステリードラマ／劇場版映画『TRICK』のオープニングテーマです。[A]や[D]では、原曲ではハーブシコードが奏でる3連符のフレーズをピアノで演奏します。ここでは、フレーズをなめらかに膨らませるよりも、機械的に一定の強さで演奏すると原曲の雰囲気が出やすいでしょう。一方、[B]、[C]、[E]などでは3連符の動きがミュージックデータの伴奏に移ります。メロディーラインをしっかりと浮き立たせるように演奏してください。全体に淡々と曲が進行しますので、自分なりにストーリーを考え、どの部分に盛り上がりを持っていくかを、あらかじめよく考えてから演奏することが最大のポイントでしょう。

3. Again～「ダットン人の踊り」アレンジ／A.P.ポロディン

SMFあり ★★★★★☆

「ロシア五人組」のひとり、ポロディン作曲の歌劇『イーゴリ公』より「ダットン人の踊り」が原曲です。ここでは、テレビCMでも使用されたジャジーなヴォーカル・ナンバーをアレンジしました。誰でも一度は耳にしたことがある郷愁を誘うメロディーを、ゆったりとした雰囲気と、ジャズ的なコードの響きに乘せています。[A]から始まるテーマのメロディーは、気持ちをリラックスさせながら、語りかけるように丁寧に演奏しましょう。また、全体にペダルを効果的に使用すると良いでしょう。リピート時は*Freely*の指定があるので、まずは右手のメロディーをフェイクさせたり、伴奏に変化をつけるなど工夫して、表現に幅を持たせつつ、素敵な演奏に仕上げてください。

4. 残酷な天使のテーゼ／高橋祥子

SMFあり ★★★★★☆

1995年にアニメ『新世紀エヴァンゲリオン』主題歌として使用されて以来、根強い人気を誇る曲です。キレのあるビートとそれに絡み合う美しいコーラスが魅力的です。[Intro]の右手の和音はそのコーラスを表現していますが、他にも原曲の様々なモチーフをかたどった音型が右手、左手を問わずさまざまな箇所に現れます。それらをよく意識しつつ、アーティキュレーションにも気を配って演奏しましょう。[A]、[D]、[C]の和音に付いたテヌートは、音の長さを保つというよりも、重みをかけて低音の響きを出すイメージで弾くと良いでしょう。一方、[E]では、鍵盤を指から離さずテヌート気味に和音を弾くことで、リズムをしっかり押し出す爽快感を味わいましょう。

5. 龍馬伝／佐藤直紀

SMFあり ★★★★★☆

2010年のNHK大河ドラマ『龍馬伝』オープニングテーマです。幕末の志士たちの熱い気持ちを想起させる躍動感あるリズムがこの曲を印象づけています。全体に、メロディーの後ろにうごめくさまざまなフレーズが譜面に織り込まれていることも特徴的です。演奏の際にはそういったフレーズも十分に意識することで、原曲の雰囲気が出せるでしょう。特に[C]、[D]の右手の、下降する音階のフレーズは、軽く弾いて次のメロディーとの区別をつけてください。曲の流れをよく把握し、クライマックスに向けていかに盛り上げていくかがポイントとなるでしょう。

6. マイ・シェリー・アモール／スティービー・ワンダー

SMFあり ★★★★★☆

スティーヴィー・ワンダーの初期のアルバム『My Cherie Amour』表題曲で、当時19歳の彼が天才アーティストとしての評価を確立するに至る時期の作品です。曲全体として、背後に鳴るビートを意識しつつ、[A]ではややゆったりと後ノリ気味に乗ると気持ちが良いでしょう。一方、キーが半音上がる[C]からは、わずかに前かがみなノリで、積極的に語りかけるイメージに変化させてみましょう。ただし、左手のオクターブの刻みに力が入りすぎないように注意が必要です。なお、G♯7やF♯7のコードなど、右手の親指で和音の2度音を同時に押さえる方法が有効な箇所があります。ポジションの移動が楽で弾きやすい指遣いを研究してみましょう。

7. 君はともだち ~映画『トイ・ストーリー』より/R.ニューマン

SMFあり ★★★★★☆

ディズニーCGアニメーション映画『トイ・ストーリー』シリーズ主題歌です。シリーズ各作でさまざまなバージョンが使われていますが、ここでのアレンジは『トイ・ストーリー2』での、ビッグ・バンド風のにぎやかなイメージです。開放的な気分で、元気に演奏しましょう。左手はストライド形、ウォーキング・ベース形などいずれのパターンでも、4拍のビートをしっかり出して軽快なスウィング感を表現しましょう。メロディーは、まずアクセントやアーティキュレーション、休符の長さなどを丁寧に読むことで、フレーズの歌い方、表現のポイントが見えてきます。特に、ちょっとした合いの手のフレーズなどに宿る格好良さが聴かせどころになるでしょう。

8. この素晴らしき世界/ルイ・アームストロング

★★★★★☆

名トランペット奏者であり歌手であったルイ・アームストロングの代表曲です。素朴ながらも美しいメロディーと、彼のダミ声のヴォーカルによる絶妙な組み合わせは誰もが馴染みでしょう。ここでは、ジャズ的なコードやハーモニーを活かしつつ、クラシカルな要素を取り入れたアレンジになっています。ピアノソロでの演奏なので、大きく呼吸をとりながら、たっぷりとメロディーを歌う意識で弾いてみましょう。伴奏のアルペジオとメロディーとの区別や、オブリガートのフレーズなど、音色の繊細な使い分けが曲の仕上がりを左右します。ダイナミクスの指示をヒントに、短いながらも十分にドラマチックに1曲を構成して盛り上げましょう。

9. SARA/coba

SMFあり ★★★★★☆

アコーディオンの奏でる情熱的なメロディーとリズムが印象的なこの曲は、古くからのアコーディオンのイメージを一新し、常に新しいサウンドを提供し続けるcoba(小林靖宏)の作品で、1991年リリースのデビュー・アルバム『シチリアの月の下で』に収録されています。全体に拍の刻みを細かく捉えることなく、2小節をひとつの単位とし、大きな流れでフレーズを感じて演奏しましょう。そのためにも、各小節4拍目の左手の和音はアクセントが付きすぎないように注意し、さらっと弾くと良いでしょう。原曲を良く聴いて、全体の雰囲気やうまく掴んでください。

10. サン・ホセへの道/バート・バカラック

SMFあり ★★★★★☆

屈指のメロディーメーカー、バート・バカラックの代表的なヒット曲のひとつです。ここではボサノバの雰囲気を取り入れつつ、ピアノの音域の広さを活かした自由なアレンジがなされています。全体に綺麗にまとめることにこだわり過ぎず、裏拍へのアクセントや、リハーモナイズされた和音をあえて強調してみるなど“粋”な感じを出すように工夫すると良いでしょう。**Intro**ではペダルを使って柔らかい響きを作ります。**D**の6~7小節目の流れは「フィーリング」を大切に、自然な感じでノリ良く弾いてください。**J**からはpが続きますが、2小節単位のまとまりを意識し、音量の起伏を持たせるなど、表情豊かな演奏を心がけましょう。

11. 序曲,オール・ザット・ジャズ~ミュージカル「シカゴ」より/J.カンダー、F.エフ

SMFあり ★★★★★☆

2002年に映画化された際にはアカデミー賞6部門を受賞したミュージカル『シカゴ』。ここでは、そのオープニング「Overture/And All That jazz」をアレンジしました。シカゴという都市は、1900年代初頭、ブルースを演奏していた南部の黒人ミュージシャン達が仕事を求めて集まってきた大都会であり、この曲も全体にブルースの雰囲気が感じられます。特に**F**、**G**の部分は原曲にアドリブを加え、よりブルース風のアレンジにしています。バウンスはあまり跳ね過ぎないようにしましょう。**A**、**B**は少し難しいですが、速いテンポで弾けるとオープニングにふさわしい華やかさが出るのでしょ。転調がたくさんある長い曲です。全体の構成をよく考えて、ミュージカルの各場面を追うつもりで演奏してください。

12. 前奏曲 嬰八短調「鐘」/S.V.ラフマニノフ

SMFあり ★★★★★☆

ラフマニノフの「幻想的小品集」第2曲です。クレムリン宮殿の鐘の音にインスピレーションを受けた作品と言われており、「鐘」の通称でも有名です。フィギュアスケートの浅田真央選手がバンクーバー五輪のフリープログラムで使用したことで話題となりました。ここではオーケストラ・バージョンではなく、原曲のピアノ独奏曲をもとに、音数を間引いたり、手の跳躍を抑えた親しみやすいアレンジにまとめてあります。**A**、**D**の左手1拍目に現れるタイの音は、荘厳な鐘の音をイメージしながら、ペダルを使ってたっぷりと響かせて下さい。**B**では、右手の上声のメロディーラインをよく歌わせましょう。曲の最後は鐘の音が徐々に遠のいていく様子を思い浮かべて演奏してみましょう。

13. 逢いたくていま/MISIA

SMFあり ★★★★★

テレビドラマ『JIN—仁—』の主題歌にもなった、スケールの大きなバラードです。まず、この調号における譜読みで戸惑わないよう、全体のメロディー、コード進行の流れをよく把握しておくことで演奏が楽になります。メロディーの音域が広いので、ダイナミクスの流れ、伴奏とのバランスに気を配って、どの音域でも豊かな「歌」を感じさせることが重要です。特に *f* の部分、高音域の部分で音が細切れに聞こえないよう、たっぷりと伸びやかな音色を意識しましょう。バックのリズムは 16 ビートが基本ですが、ピアノはそれにつられて小さく合わせずに、8 分音符の長さをしっかり保つイメージでじっくり弾く方がうまくアンサンブルできるでしょう。

14. テリーのテーマ ~映画『ライムライト』より/C.チャップリン

★★★★★

チャールズ・チャップリンの後期の名作『ライムライト』主題歌。この映画はチャップリン定番の扮装による喜劇ではなく、素顔で出演したシリアスなラブ・ストーリーです。彼自身の作曲によるこの曲は、相手役のバレリーナの役名にちなんで「テリーのテーマ」と呼ばれるほか、「エターナリー」の題名でも有名です。ここではオーケストラの華やかなイメージを受け継ぎ、オクターブ・メロディーや効果的な対旋律が多用された厚みのあるピアノ・アレンジになっています。テンポの揺らし方やフレーズの歌い方を大きく取るとともに、それぞれのパート、フレーズの意味を十分に味わいながら、スケールの大きな演奏に仕上げましょう。

15. ヴァーチャル・インサニティ/ジャミロクワイ

SMFあり ★★★★★

イギリス人アーティスト、ジェイ・ケイの一人ユニット“ジャミロクワイ”による 1996 年の大ヒット曲です。その独特なサウンドは、ポップ、ファンク、ジャズなど様々なジャンルの要素を含んでいます。**[Intro]** は、この曲を強く印象づけるパワフルなピアノのリフから始まります。常に力強いタッチで、しっかりとグルーブ感を出して弾き始めましょう。**[A]** からのメロディーはジェイ・ケイの個性的な歌いまわしをイメージしながら、センス良くスマートに、そして流れるようなリズムで演奏しましょう。曲全体を通して、思わず体が動き出すような躍動感あふれる演奏を心がけてください。

16. ブエノスアイレスの冬/A.ピアソラ

★★★★★

ピアソラのタンゴ四部作「ブエノスアイレスの四季」のうちの 1 曲で、もとはピアノ、バンドネオン、ヴァイオリン、ギター、コントラバスからなる五重奏団のために書かれました。厳しい冬を象徴するような重苦しいメロディーと、情熱的な動きのあるパートとが幾度となく交錯するロマンチックな曲で、最後は春の訪れを思わせる温かい楽想で幕を閉じます。遅いテンポながらも「タンゴ」であることを表現するには、拍の一つ一つを「ビート」と捉え、ベースの刻みは強く弾くのではなくじっくりと押さえつつ、ステップを踏むように次の拍に移動する感覚を持ってみましょう。また、メロディーの「なまり」の感覚も、実際のタンゴの演奏を聴いてつかむと良いでしょう。

17. 教養の闘い/菊地成孔

SMFあり ★★★★★

NHK『爆笑問題のニッポンの教養』テーマ曲。広いジャンルで活躍する先鋭的ミュージシャン、菊地成孔による情熱的なラテン・ジャズ・ナンバーです。まずは、付点音符のベースのパターンに乗って、全体を通してラテンのグルーブを表現することが基本です。**[D]** からは、マイナー・ブルースの進行に則った 12 小節ずつのアドリブパートになります。原曲では管楽器やピアノなど複数の楽器のソロ回しとなっている長いアドリブですが、各セクションで表現の仕方に変化をつけるなど、メリハリを失わないように構成してみましょう。また、左手のバックイング（コンピング）をビートに合わせてタイミングよく弾くこと、右手と左手のコンビネーションも重要です。

18. ハンガリー狂詩曲 第 2 番 嬰八短調/F.リスト

SMFあり ★★★★★

「ハンガリー狂詩曲」は全 19 曲のピアノ独奏曲集で、ここでは、有名な「第 2 番」の原曲を抜粋して構成しています。当時ハンガリーに多く暮らし、リストにも影響を与えていたロマの音楽の特色がふんだんに盛り込まれ、頻繁なテンポ変化や、艶のある情熱的な旋律、終盤にかけて高まってゆく躍動感が魅力的です。こうした原曲のフィーリングをよく研究し、堂々と演奏しましょう。ミュージックデータのオーケストラとの一体感も大切です。各パートの動きに耳を傾け、時には牽引し、時には支えるといった「対話」を心がけましょう。**[E]** ではテンポ変化につられないように注意しながら、*pp* で始めてください。各場面の区切りや最後の *Andante*→*Presto* などのテンポの変化は、自然に弾けるようになるまで間合いとタイミングをしっかりと体得しましょう。